

二一四五番

秋萩あきはぎの 恋こひも尽つきねば さ雄鹿をしかの 声こゑい継つぎい継つ  
ぎ 恋こひこそ増まされ

二一四六番

山やま近ぢかく 家いへや居をるべき さ雄鹿をしかの 声こゑを聞ききつつ  
寝いねかてぬかも